

湖南地域障害児・者サービス調整会議「作業部会」調査報告 2021年度

<調査目的>

湖南地域における日中活動の場(障害福祉サービス等)の現状を把握し、今後必要とする数値目標と資源整備へ導く。

各市の障害福祉計画が地域のサービス事業所や法人と協働し推進されるよう、具体策を提案する。

<調査内容>

調査日:2021年7月1日

調査対象:湖南地域に暮らす障害のある方、湖南地域にある障害福祉サービス事業所

- ① 学齢期等の実態(状況)と今後の想定進路の数
(学齢期等の数:548名…特別支援学校小学部1年生～高等部3年生、児童入所施設、テクノカレッジ草津)
- ② 在宅者等の実態(状況)と今後の通所先希望予想の数
(在宅者等:397名…日中活動等所属のない方)
- ③ サービス事業所の実態(空定員)と今後の受入可能数

グラフ化

上記①②対象者(945名)をA・B・Cに分類。そのうち、

①(学齢期調査)学齢期等の高等部の方(相当年齢の方含む)と、②(在宅者等調査)の分類Aに該当する(『緊急度未定』を除く)方あわせて266名の、通所サービス別の希望数と事業所の受入可能数のバランスをグラフに示した。

<調査から把握したこと>

- ◎ グラフ化した266名では知的障害のある方が229名と最も多い。
- ◎ 2～3年未満(1年未満も含む)で最も多い希望は企業就労68名。次いで就労継続支援B型61名、生活介護(創作系タイプ)42名、就労移行支援35名となっている。
- ◎ 前年度から受入可能数が減少したのは、就労継続支援B型が148名から141名、自立訓練が24名から22名。
- ◎ 前年度から受入可能数が増加したのは、就労移行支援が22名から56名、生活介護(創作系タイプ)30名から56名、生活介護(通園タイプ)が25名から45名(留意点⑨参照)、就労継続支援A型が43名から48名。
- ◎ 障害福祉サービス事業所の受入可能数と、利用希望者のバランス(今後の充足度)から、就労継続支援B型は十分に足りている。1年以内▲120。2～3年以降▲80。
- ◎ 生活介護については6年後までのデータを集めた。創作系タイプは、1年以内では▲36と、数だけ見れば充足しているが、希望者が2～3年後には46名、6年後は83名と増える見込みで確実に不足する。通園タイプは6年後にも▲12とプラス値が維持される見込み(留意点⑨参照)。
- ◎ 在宅者等397名(前年度比▲14)のうち、分類A該当者は53名(前年度比▼28)。分類Bは173名(前年度比▲4)、分類Cは171名(前年度比▲38)。日中活動の場を希望していない方が増加している。
- ◎ 在宅者等の年齢層は40代が一番多く130名を把握した。中でも精神障害の方が74名と最多。また増加が顕著だったのは30代で109名(前年度比▲33)であった。

分類A:本人が日中活動の場を希望している。しかし、資源が足りないために利用できない。
分類B:本人が日中活動の場を希望している。しかし、体調や家庭の事情で利用できない。
分類C:本人が日中活動の場を希望していない。

<その他注目したい点、留意点>

【調査①について】 補足資料②参照。

1. 調査対象者(学齢期等)数は、今年度548名で、前年度と比較すると17名増加している。
2. この調査の対象にはなっていないが、地域の通常の学級に在籍する支援の必要な児童生徒や、特別支援学級在籍者は右肩上がりに増加している。

【調査②について】 補足資料①参照。

3. 調査対象者(所属のない在宅者等)数は、今年度397名で、一番多いのは精神障害237名であった。
4. 分類A、B、C併せて日中活動の希望は、「企業就労」が113名、次いで就労継続支援B型が95名、「デイサービス・サロンなど」と「その他」が94名。現在医療機関入院中や自宅からの外出が困難(ひきこもり等)な方、障害者手帳を取得していない方については、障害福祉サービス以外の資源や支援のニーズが高い。
5. 60代以上の在宅者31名を把握した。そのうち13名が日中活動の場を希望。共生型サービス事業所の立ち上げもあり、高齢分野とのさらなる連携が求められる。
6. 在宅者等で10代の方11名を把握した。中学校や高校を中退や卒業後、ひきこもり傾向や、本人に合った事業所がなく在宅になっているケースがある。

【調査①②共通】

7. 本調査ではサービス事業「療養介護」の選択肢を設けていない。(療養介護を希望される場合は)第二希望のサービス事業の選択がされている。重症心身障害者の「療養介護」の希望は多く、この課題は重度障害者部会等でニーズを把握していく。
8. 学齢期等の想定進路、在宅者等の通所の希望の把握と併せて、施設入所やグループホーム等の利用希望を聞き取ったケースが多かった。住まいや生活の場

の意向の実態把握や対策についても、他の専門部会等での検討が急がれる。

【調査③について】

9. 例年の調査では受入可能数が「要相談」や「2~3」となっていると数値として計上されていなかった。より正確なデータを出すため、今年度からできる限り実数の記入を依頼し、さらに「要相談」は1として、「△~×」は小さい値(△)を数値としてデータに反映させた。結果、特に生活介護(通園タイプ)で昨年度との違いが出た。
10. この1年は9事業所が立ち上がった。(生活介護創作系タイプ6か所増、就労継続支援A型事業所1か所増、就労移行支援事業所2か所増)
11. 生活介護創作系タイプは新たな事業所の開設(6か所中3か所は共生型サービス)や、定員増がされ、受入可能数▲26となったが、市によって偏りがあり、近隣に事業所がないために、遠方までご家族が送迎をせざるを得ない状況がある。
12. 生活介護事業所は特に、複数の事業所の併用利用や、週1、2日利用の方もいる。充足度がプラス値でも、週5日利用したい方は受けられない場合がある。受入体制が整わないなどでやむを得ず併用利用になるケースもあるが、事業所ごとの活動内容に応じて併用利用を希望されるケースもある。
13. 通所事業所「就労移行支援事業所」「自立訓練」の受入可能数は、利用期限に伴い利用者は流動的で、充足度は年毎に変動する。
14. 通所事業所の受入可能数がそのまま利用可能数と捉えられない実態(数字上での余裕があっても実際には利用のミスマッチ)がある。背景として、事業所が利用の対象とする障害種別を限定している場合や、特性に応じるための工夫や空間の課題(車いす対応の車やトイレがない)等がある。人材(支援員)確保や定着が厳しい現状もあり、支援体制の困難さを抱えている(支援度の高い行動障害のある方は受けられない)など、事業所の運営方針や実情も考慮したい。

【調査①②③共通】

15. 補足資料③は、生活介護希望者について6年後までの見通しを出した。中学部1年生から高等部2年生の希望先の把握は主に担任や進路担当の見立て希望者数を割り出していることもあり、この資料は生活介護利用希望者数の大まかな今後の傾向を把握するために活用したい。
16. 通所事業所「生活介護」を『創作系タイプ』『通園タイプ』に分けたが、これは想定進路(通所希望)先を具体的に把握するために便宜上設けたもので、法的に示されたサービス体系ではない。重症心身障害者や医療的ケアが必要な方などが中心に利用される事業所を『通園タイプ』としている。
17. 調査①の学齢期等の想定進路、調査②の在宅者等の希望の通所先の変動に留意したい。たとえば「就労継続支援B型」「生活介護」の各通所事業所の支援内容は多様で幅広いため、事業体系にこだわった選択が難しい現状である。体験実習や評価を重ね、個別調整の過程での想定や希望の変動が予想される。
18. 学齢期や在宅者ともに今後の利用希望者の数に見合わないサービス事業所の受入(不足)の実態について、各部会や4市自立支援協議会等で情報の発信、背景の把握をおこない、数値目標と資源整備にむけた具体策の検討をしていくこととする。
19. 例年同様、湖南圏域4市の市別データの整理を行ったが、4市内に留まらず、圏域外との進路、通所先の調整がある。

<2021年度作業チーム>

- (草津養護学校) 南谷
- (野洲養護学校) 原
- (草津市障害福祉課) 山元
- (守山市障害福祉課) 城内・中川
- (栗東市障がい福祉課) 河合
- (野洲市障がい者自立支援課) 西村・山中
- (南部健康福祉事務所) 小川
- (野洲市社会福祉協議会) 中塚
- (精神障害者地域生活支援センター風) 黒木
- (びわこ学園障害者支援センター) 村井
- (草津市立障害者福祉センター) 細見・中野
- (働き・暮らし応援センターりらく) 竹中・相馬
- (身体障害者相談支援センターやじろべえ) 河田
- (障害者相談支援センターあんず) 藤木

<作業部会活動経過>

平成23年 9月30日 2011年度報告書作成・提出
以降、年1回報告書作成・提出
～今年度～

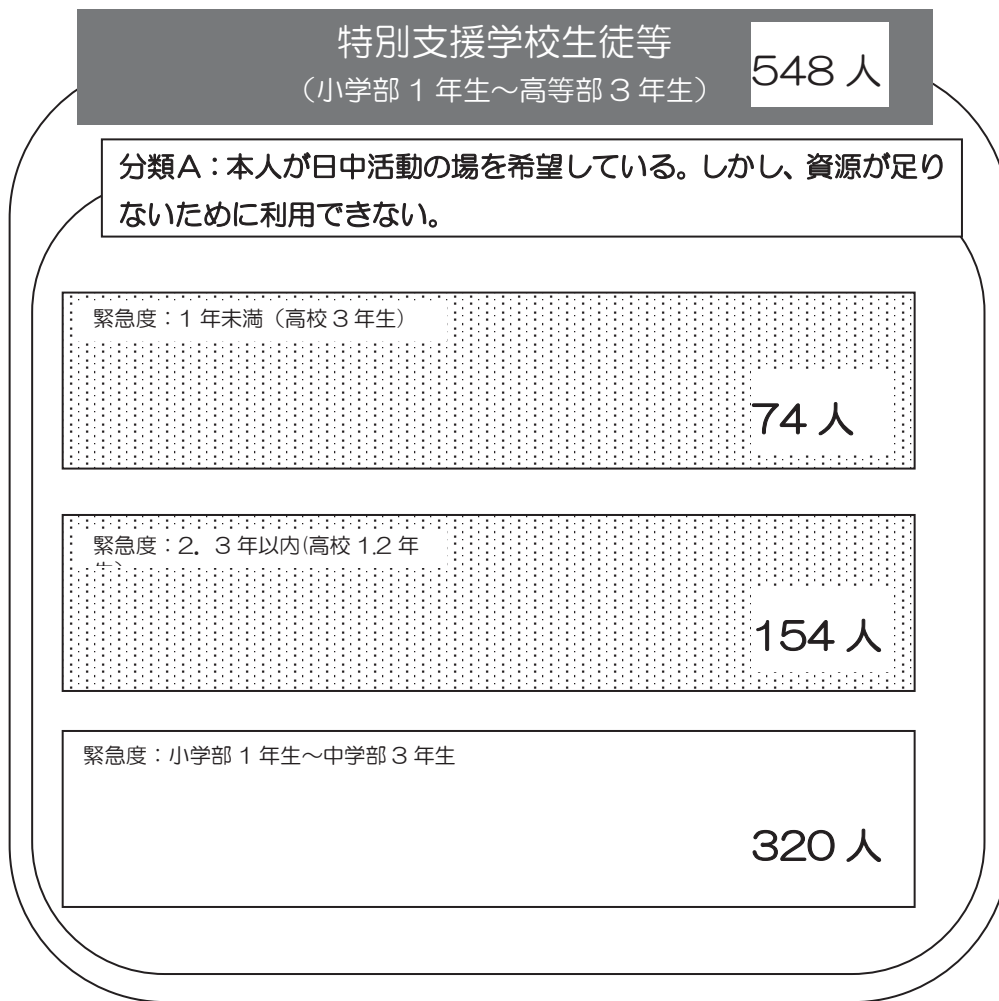
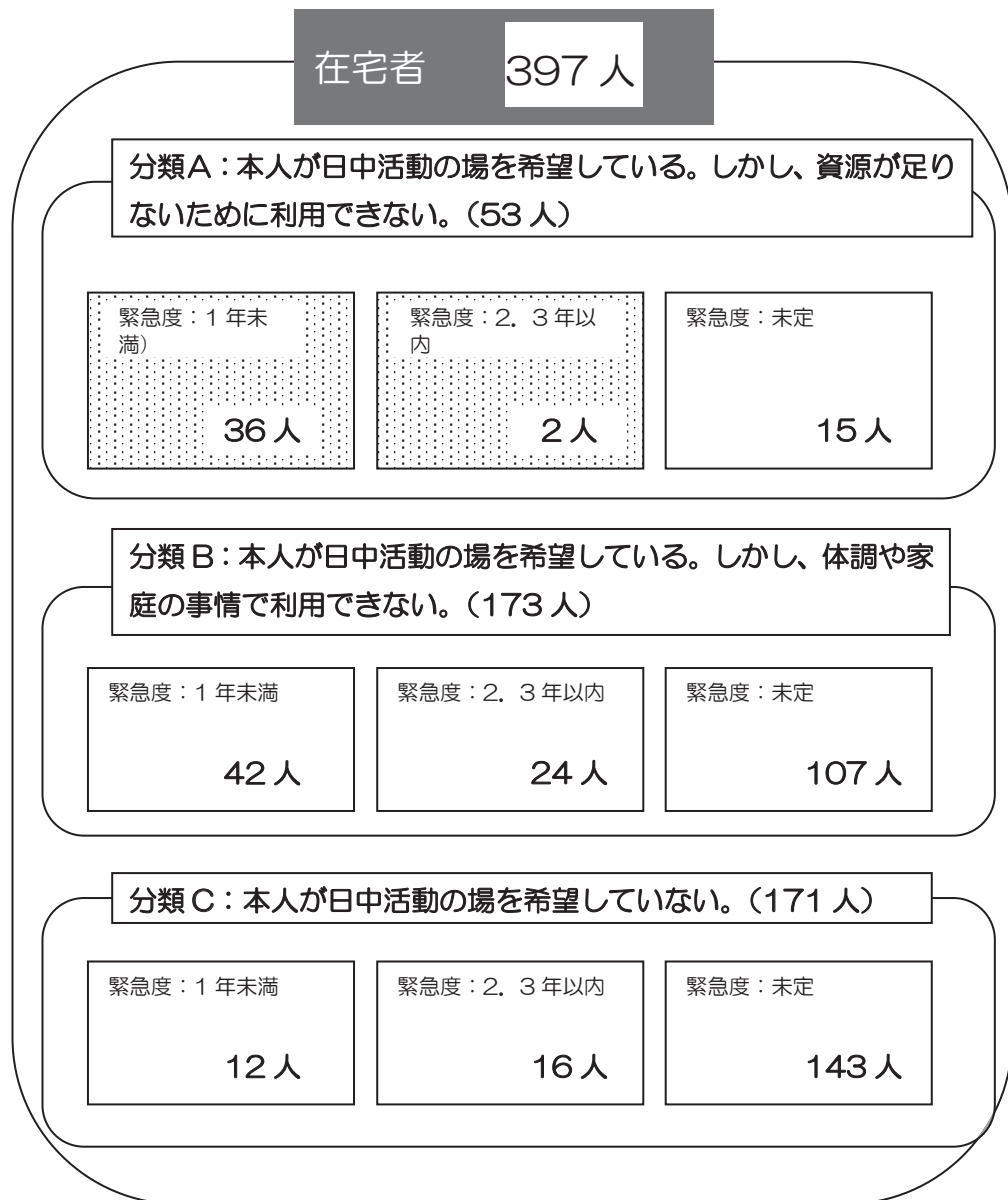
令和 3年 6月11日 [第24回作業部会]

7月 1日 ～調査・集計

9月 3日 [第25回作業部会]報告書案確認

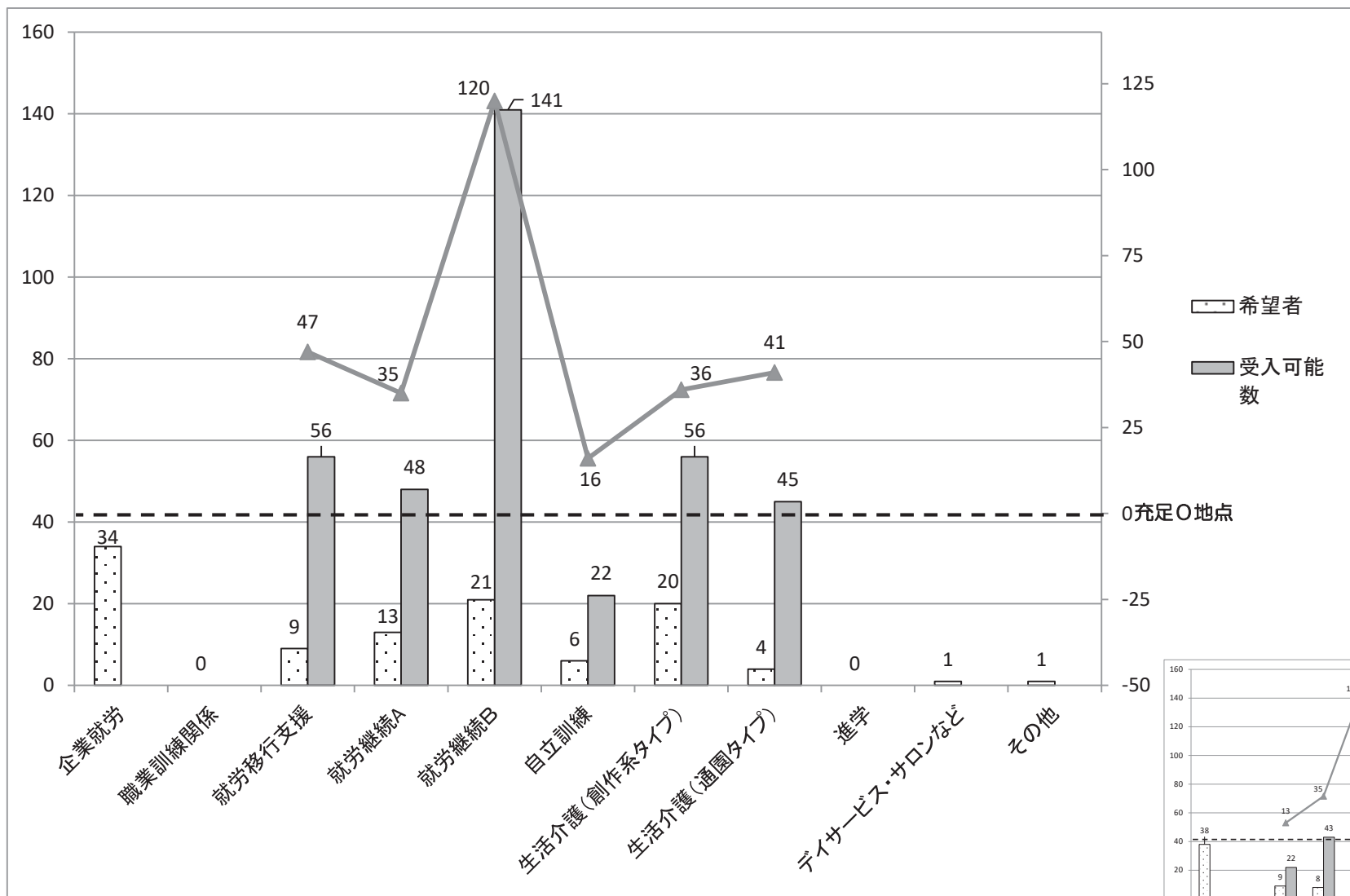
10月 1日 2021年度報告書完成・提出

調査対象者範囲とグラフ化した対象者範囲



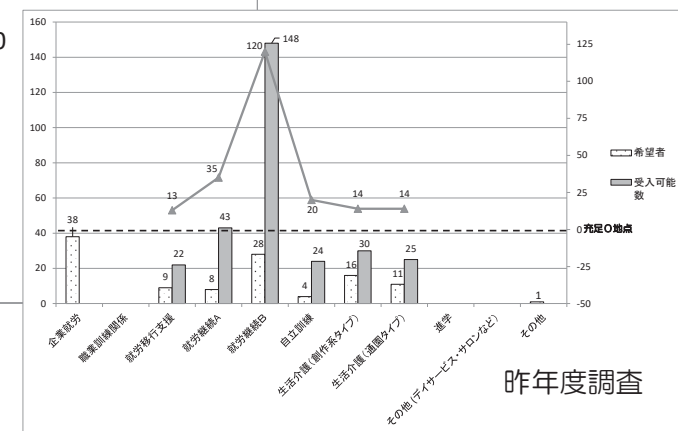
 グラフ化

1年未満にサービスを求めている人（サービス内容ごと）

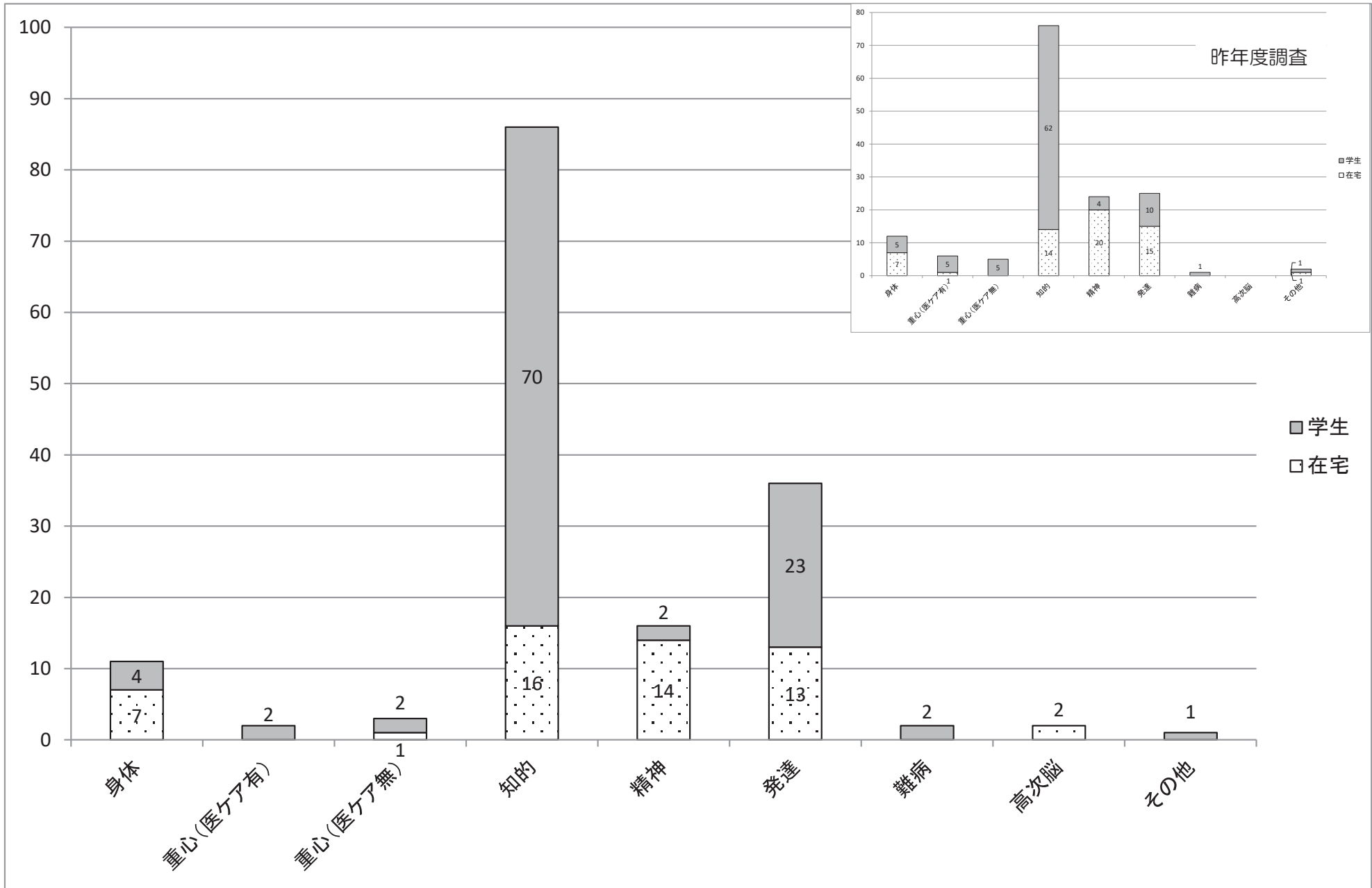


※「企業就労」、「就業訓練関係」、「進学」、「その他」については、調査未実施のため受け入れ可能数は不明。

※受入可能数について→要相談は1人でカウント。△人～×人の場合、△人を計上。

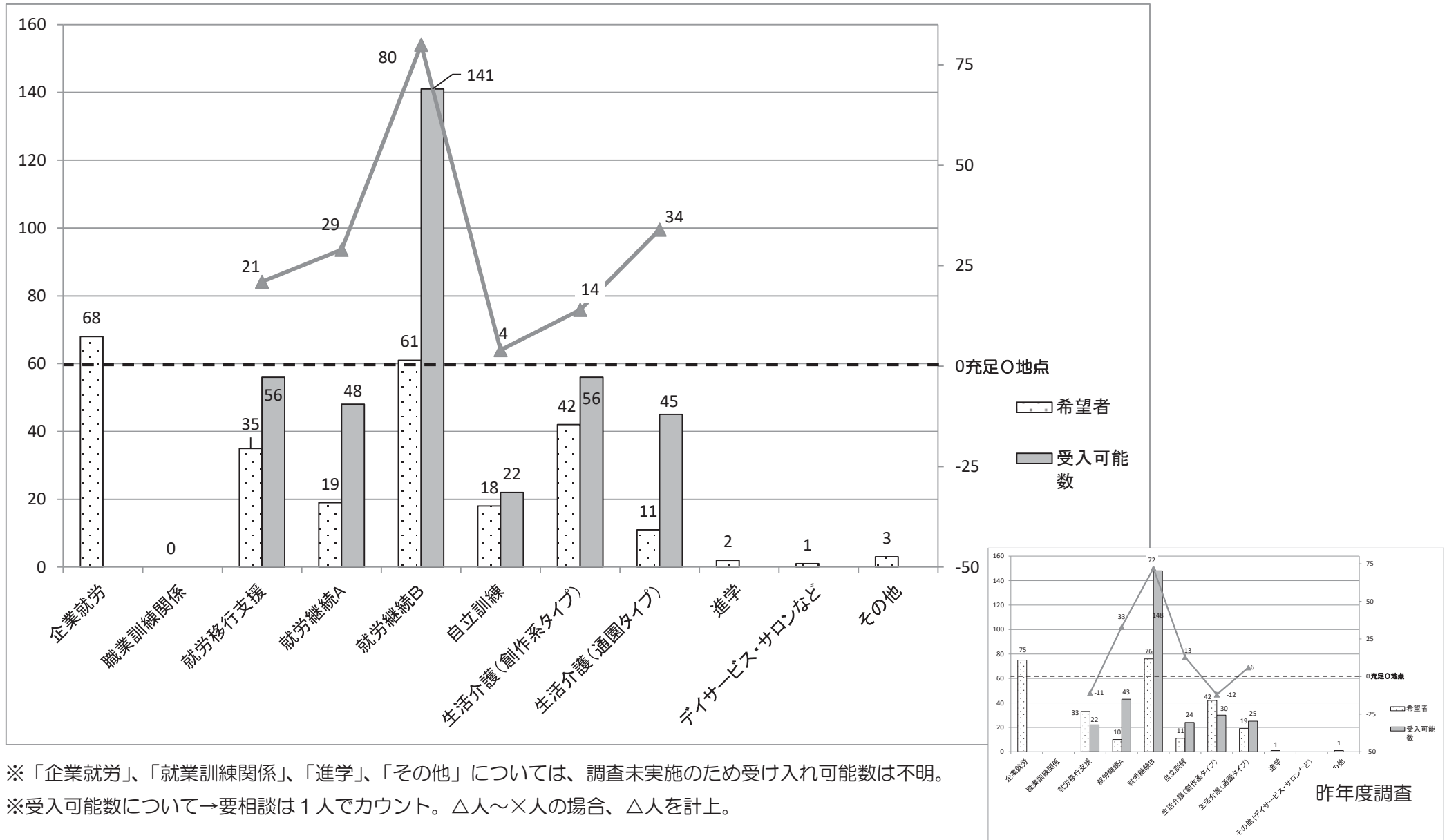


1年未満にサービスを求めている人（障害種別ごと）



※重複障害については、それぞれに計上。

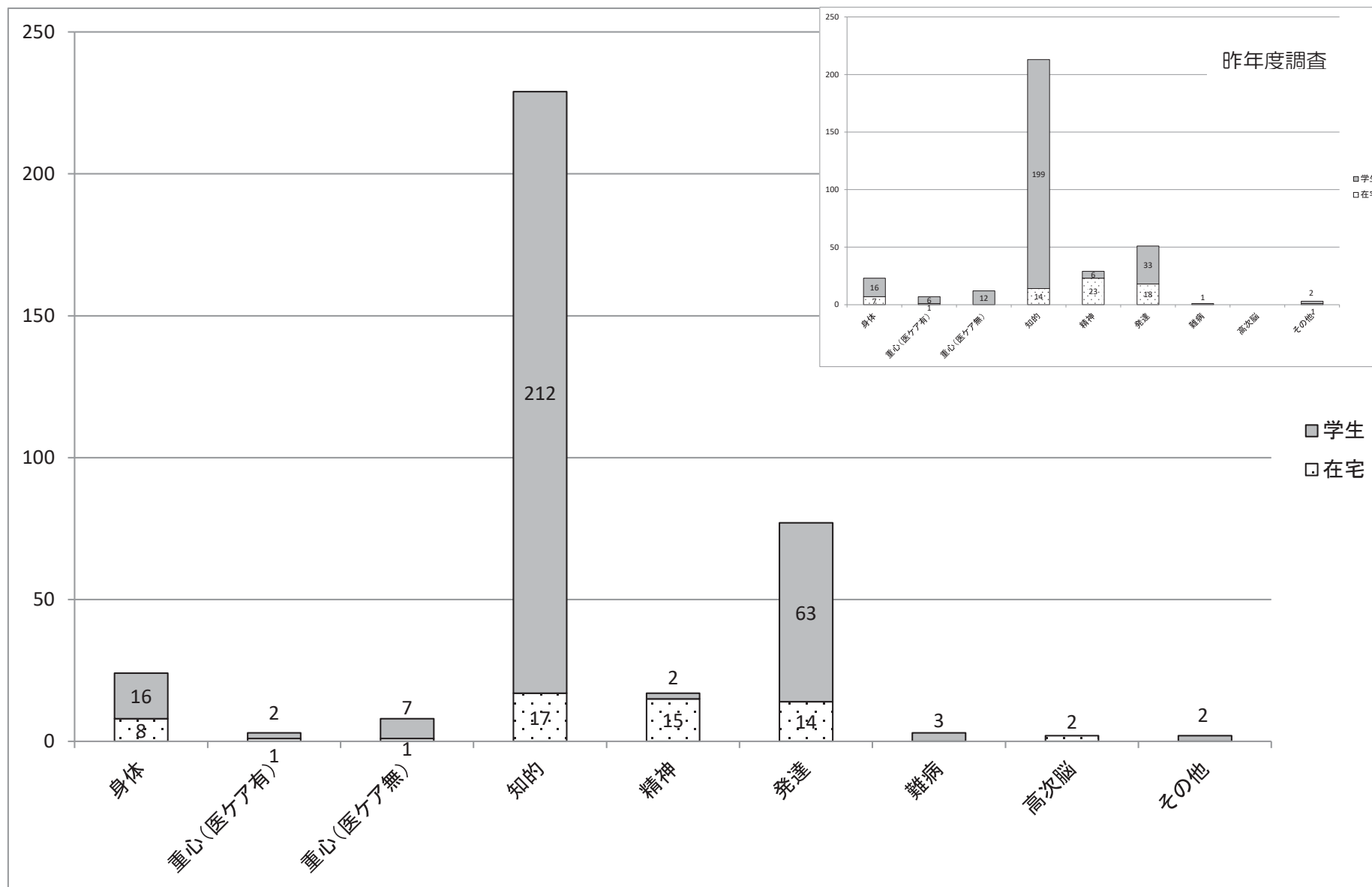
2.3 年未満（1年未満も含め）にサービスを求めている人（サービス内容ごと）



※「企業就労」、「就業訓練関係」、「進学」、「その他」については、調査未実施のため受け入れ可能数は不明。

※受入可能数について→要相談は1人でカウント。△人～×人の場合、△人を計上。

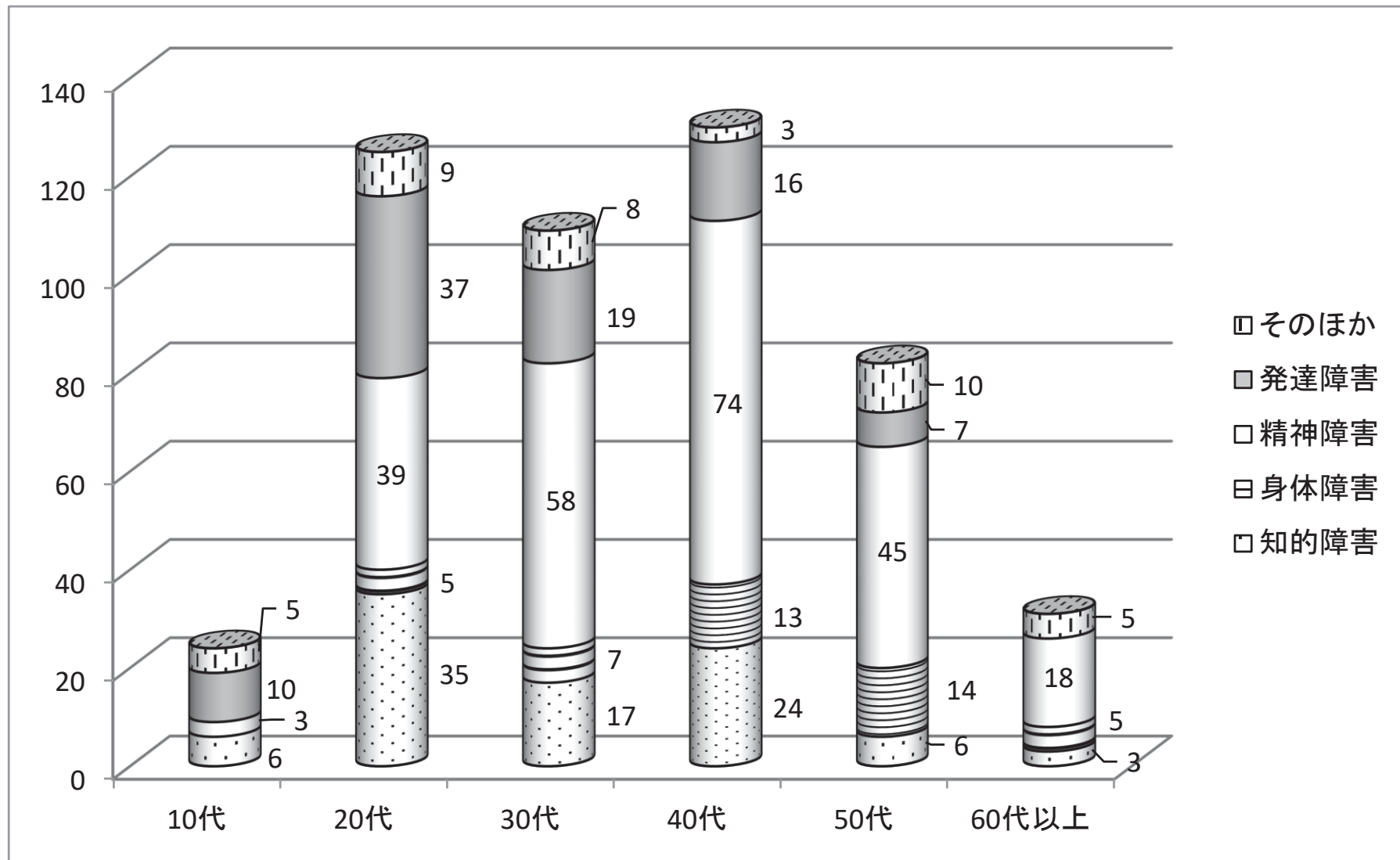
2.3 年未満（1年未満も含め）にサービスを求めている人（障害種別ごと）



※重複障害については、それぞれに計上。

補足資料①（在宅者調査より）

調査②『在宅者等の今後の通所先希望予想の数』からあがってきた在宅者等 397名 の年齢層及び障害種別について

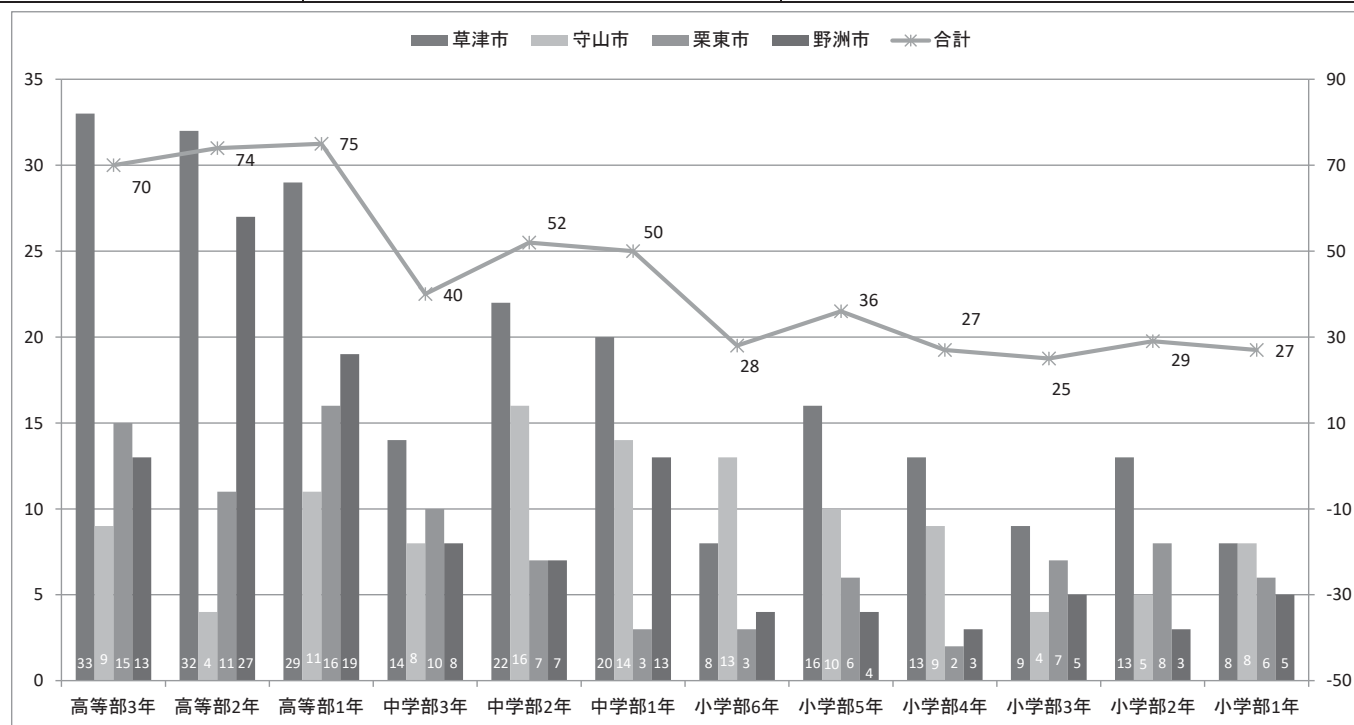


※重複障害については、それぞれに計上。

特別支援学校に通う生徒は どれくらいいるの？

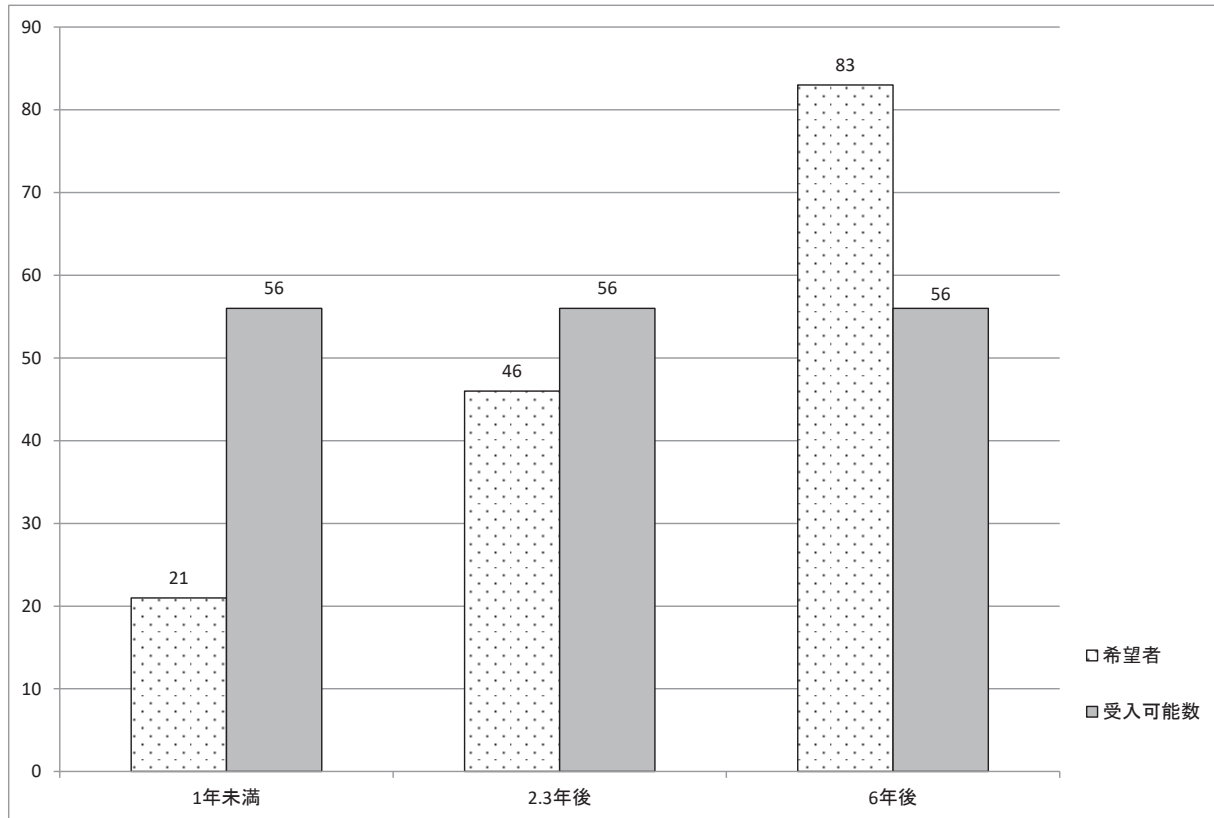


高等部(219人)	3年生(70人)	草津：33、守山：9、栗東：15、野洲：13
	2年生(74人)	草津：32、守山：4、栗東：11、野洲：27
	1年生(75人)	草津：29、守山：11、栗東：16、野洲：19
中学部(142人)	3年生(40人)	草津：14、守山：8、栗東：10、野洲：8
	2年生(52人)	草津：22、守山：16、栗東：7、野洲：7
	1年生(50人)	草津：20、守山：14、栗東：3、野洲：13
小学部(172人)	6年生(28人)	草津：8、守山：13、栗東：3、野洲：4
	5年生(36人)	草津：16、守山：10、栗東：6、野洲：4
	4年生(27人)	草津：13、守山：9、栗東：2、野洲：3
	3年生(25人)	草津：9、守山：4、栗東：7、野洲：5
	2年生(29人)	草津：13、守山：5、栗東：8、野洲：3
	1年生(27人)	草津：8、守山：8、栗東：6、野洲：5

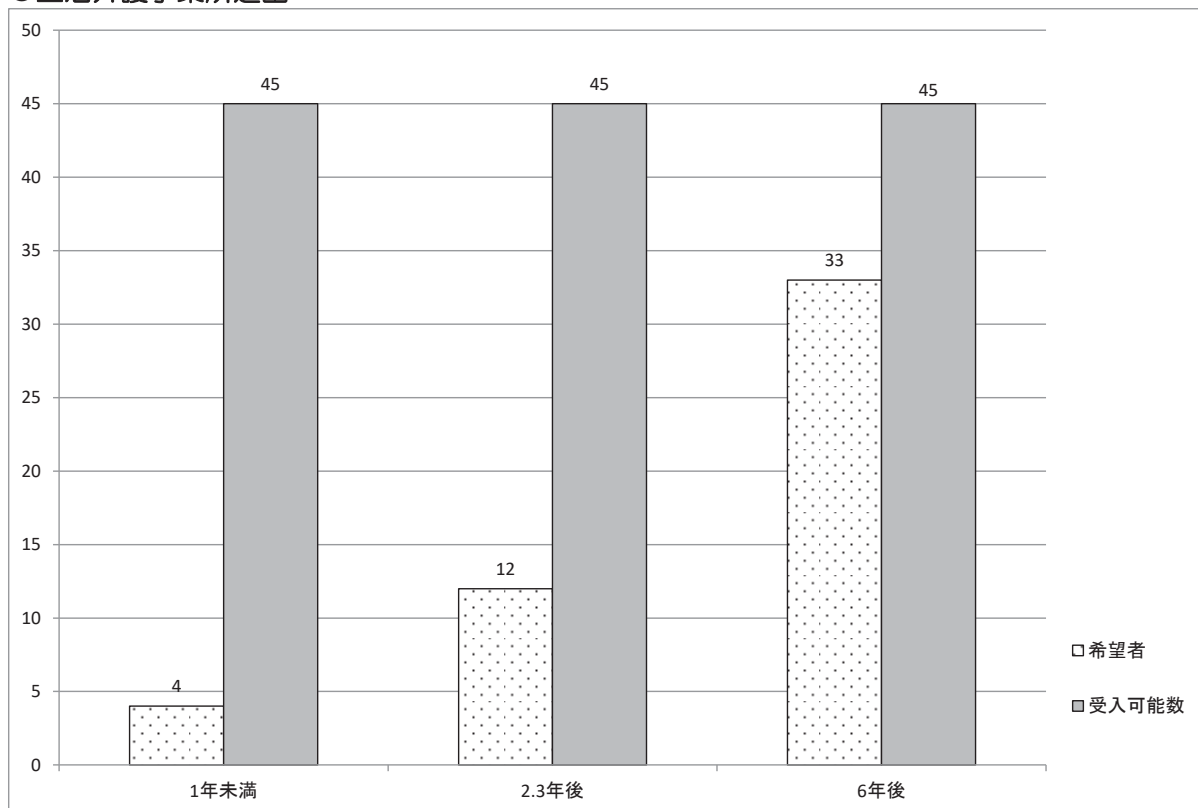


※信楽学園、近江学園、テクノカレッジ草津（総合実務科）利用者は含まない。

●生活介護事業所創作系



●生活介護事業所通園



※受入可能数について→要相談は1人でカウント。△人～×人の場合、△人を計上。